

# 令和7年度 子ども文教委員会 地方都市行政視察調査報告書（案）

## 1 訪問先及び調査事項

調 査 日	訪 問 先	調 査 事 項
令和7年11月4日	大阪府枚方市	長期休業期の昼食サービス事業について
令和7年11月5日	大阪府泉大津市	泉大津市立図書館シープラについて

## 2 調査内容

### 大阪府枚方市

#### 1. 視察経過

大阪府枚方市役所庁舎の市議会事務局を訪問し、枚方市教育委員会学校教育部放課後子ども課職員から説明を受け、質疑を行った。

#### 2. 説明内容

下記の調査事項について、職員より説明を受けた。

- (1) 総合型放課後事業の概要
- (2) 昼食サービス事業の概要
- (3) 事業実施後のアンケート調査結果
- (4) 今後の課題

#### (1) 総合型放課後事業の概要

##### ① 実施校数

枚方市では、令和5年度より、市内の公立小学校全44校で、直営22校、委託22校で総合型放課後事業（下記②及び③）を実施している。

##### ② 放課後オープンスクエア

子どもたちが自分で考えて、自由に遊んだり、学んだりできる放課後の居場所として、放課後、土曜日、三季休業期に学校施設の一部を開放

##### ③ 留守家庭児童会室

保護者の就労や病気等により保育を必要とする子どもに対し、適切な遊びや生活の場を提供する場

##### ④ 長期休業期の昼食サービスの試行実施

上記②及び③の利用児童者を対象に、令和6年度夏季休業期から昼食サービスの試行実

施を開始した。

## (2) 昼食サービス事業の概要

### ① 背景

総合型放課後事業の実施アンケート調査において、「事業の向上として求めること」として「昼食サービス」との回答が多数を占めている状態であった。これにより、保護者の負担軽減と子どもの健全な育成支援を目的として、昼食サービスの導入を決定した。

### ② 事業のスキーム

- ・職員が現金を取り扱わないことを大前提として、WEBシステムを活用した外部民間型を採用し、注文決済システムを導入
- ・LINEアプリやWEBの専用ページより、保護者が室名や児童名等を登録
- ・メニューを確認し、希望する日のお弁当を注文、支払い
- ・事業者が製造、配達

### ③ 提供事業者

#### ア 令和6年度

- ・公民連携プラットフォームによる提案を受け、事業者と協定を締結
- ・提案者：株式会社PECO FREE
- ・提案内容：施設ごとのお弁当の予約注文、集計、決済を行うシステム（LINEアプリ）の提供、弁当事業者の検索・マッチング、弁当事業者への注文
- ・弁当事業者数：3社
- ・実施校数：夏季11校、冬季は24校で実施

#### イ 令和7年度

- ・事業者と協定を締結
- ・事業者：株式会社からここカンパニー、株式会社PECO FREE
- ・実施校数：夏季は全44小学校に拡大して実施

### ④ 利用状況

#### ・令和6年度

##### ア 夏季休業期（11校）

総数（23日分）	1校1日当たりの平均食数	利用率
2,548	10	10%

##### イ 冬季休業期（24校）

総数（6日分）	1校1日当たりの平均食数	利用率
1,723	12	13%

#### ・令和7年度（夏季）

総数（25日分）	1校1日当たりの平均食数	利用率
9,046	9	8.5%

### (3) 事業実施後のアンケート調査結果

#### ① 利用頻度

約30%が複数回利用しており、そのうち、放課後オープンスクエア・留守家庭児童会室利用時及び週5日程度利用している利用者が半数を占めた。

#### ② サービスを利用してよかったこと

「毎日のお弁当作りの負担が軽減した」との回答が58%を占めた。

#### ③ 利用しなかった理由

値段が高いとの回答が32%、注文の締切が早いとの回答が17%を占めた。

### (4) 今後の課題

- ・事業者がサービスを提供するために必要な食数を確保すること
- ・長期休業期のみのため、配送にかかる人員や車両の確保が困難なこと
- ・弁当容器の回収が困難なこと
- ・WEBシステムの利用料
- ・栄養バランスの取れたメニュー
- ・アレルギーへの対応
- ・価格の引き下げ

### 3. 主な質疑応答

(問) 毎日新聞の今年の6月の記事で、公益財団法人クジラ育英会が実施している事業が掲載されていたが、こちらの事業との関連は。

(答) そちらは全く別の事業となっている。様々な事情で、昼食を食べることが困難な児童向けに事業を実施していると聞いている。

(問) 本事業を始めるにあたり、給食を稼働させるという選択肢もあったかと思うが、人数や様々な問題で難しく、お弁当の提供ということにされたと思う。給食だとどのような問題があったか。

(答) 長期休業期において、どれくらいの生徒が利用するか予測できないという問題があったためである。また、委託事業者によっては、夏季休業時に仕事がないから働いている従業員が多くいるため、人材確保が難しいとの議論があった。

(問) どの学年の生徒の利用数が多かったか。

(答) 1年生から3年生の利用が多くを占めた。

(問) この事業で市が実際に負担している金額は。

(答) 昨年度の試行実施の実績として、ごみ箱などの備品購入費が約11万円、お弁当を保管するコンテナボックスや保冷剤などの消耗品費が約27万円であった。今年度は全校実施の予算として、同様に備品購入費と消耗品費を予算化している。

(問) システム利用料はいくらか。

- (答) 事業者が使用しているプラットフォームを利用しているため、システム構築の費用はかかっていない。システムの手数料はお弁当の料金に上乗せされており、利用者にご負担していただいている。
- (問) 各施設に何時ごろお弁当が配達され、どのように保管しているか。
- (答) 9時半から11時ぐらいの間に順に配達してもらうことになっている。留守家庭児童会室においては、コンテナに入れ、保冷剤を入れて空調の効いた部屋で保管している。冷蔵庫に入れてほしいという保護者の声もあったが、お弁当が固まってしまう、電子レンジも使用できないため、このような状態で保管している。
- (問) 利用状況について、令和7年度の利用率が8.5%と出ており、少ないように見えるが、アンケート結果を見ると2回以上利用した割合が4分の1くらいとなっている。親が弁当を作れない時に使えるサービスという意味で言うと、ある程度の家庭は本事業を必要としているという見方が妥当だと思うが、どのように考えてるか。
- (答) 必要とされている事業だと感じている。
- (問) お弁当代を下げるために事業者に補助金を渡しているなどの仕組みにはなっていないということか。純粹に、事業者はお弁当を売って、そこで利益を得るとというのが前提の事業になっているのか。
- (答) 現在、プラットフォームを利用して、経営方式で登録してもらっている。市が事業者を支援する形になった場合、細かい審査が必要になってくるため、スピード感がなくなってきてしまう。今現在出来るかたちで、と考えている。
- (問) 協定というのは普通の契約とは異なるのか。
- (答) 市が費用を支払う委託契約ではなく、事業を協力してやっていこう、というかたちで協定を結んでいる。
- (問) 配達では、車を何台使用しているのか、1台で全ての施設を回るのか。
- (答) トラック3台で配達してもらっている。1台約100食あれば採算が取れる、と聞いている。
- (問) アンケート結果で、「お弁当が高い」との回答があるが、いくらくらいが適切だと回答者は考えているか。
- (答) 300円ぐらい、との意見があった。学校給食の価格のイメージがあると思う。
- (問) 今後の事業の方向性は。
- (答) 市として、支援が必要なお子さんが食事をできる場所を広く作っていかないといけないと思っている。関係各課と調整して事業を進めていきたい。

## 1. 視察経過

泉大津市の市立図書館シープラを訪問し、施設内を見学しながら図書館長の説明を受けた後、質疑を行った。

## 2. 説明内容

下記の調査事項について、職員より説明を受けた。

### (1) 図書館の概要

#### (2) 施設の特徴

### (1) 図書館の概要

- ① 名 称：泉大津市立図書館シープラ
- ② 所 在 地：泉大津市旭町20-1
- ③ 施設概要：アルザタウン泉大津（商業施設）地下1階から地上6階のうち、4階部分を使用
- ④ 延床面積：3,510.21㎡
- ⑤ 収容冊数：開架約15万冊、閉架約3万冊
- ⑥ 閲覧隻数：約500席
- ⑦ オープン：2021年9月

### (2) 施設の特徴

#### ① 活動の3つの柱

学び：市民自らが地域課題を解決できる支援

協働：多世代、多文化、各種学校、企業協働の支点

創造：新たな価値の創造

#### ② サービスの3つの柱

発信：ビジネス支援サービスの充実

交流：多種多様なイベントの実施

連携：学校等連携の強化

#### ③ 7つの図書館像

##### ア 育む・学ぶ（学びの空間）

I すべての市民を読書へ誘い、本のある豊かな生活をおくれる魅力的な図書館

II 市民自らが地域課題を解決できるような学習の場、人材育成の場である図書館

##### イ つながる・集う（創造空間）

III 多世代の市民、国内外の人々が集い交流する

- Ⅳ 大学や専門学校、民間企業との連携を進める豊かな場づくり
- Ⅴ 学校図書室と連携し、広域でのサービスを提供
- ウ 想像する（創造空間）
  - Ⅵ 市民が交流し、楽しみ、集い、好奇心が刺激され、新たな価値を作る
  - Ⅶ 企業やビジネスパーソンが自由に集い、自らの起業の活性化や新たな技術開発、ビジネスモデルを構築
- ④ 8つの機能
  - ア 読書啓発、生涯学習機能
    - ・外国語図書の充実
    - ・長時間利用できる空間
    - ・学校図書室との連携
    - ・多世代が学ぶ場
    - ・地域課題を解決できるような学習の場、人材育成の場
  - イ 子どもの健全育成機能
    - ・子どもの自主的な読書活動と保護者の子育てを支援
  - ウ 青少年の健全育成
    - ・中学、高校生世代へ提供する図書を収集
    - ・勉強とともに交流が可能な、中学、高校生や働く若者たちの空間を提供
    - ・青少年向けの行事の開催など、青少年の居場所づくり
  - エ ビジネス支援機能
    - ・インターネットやデータベースへのアクセス、ビジネスに必要な情報収集
    - ・起業に当たっての各種相談、起業家セミナー、ICT活用講座などのサービス提供
    - ・企業やビジネスパーソンが自由に集い、自らの企業の活性化や新たな技術開発、ビジネスモデルを構築できるとともにオフィスとして活用
  - オ 国際化・ICT化対応
    - ・外国人利用者のための図書の充実
    - ・多世代の市民、国内外の人々が集い交流
  - カ 観光案内機能
    - ・地域を記録し、地域文化や伝統を資料として保存し、信頼できる地域情報を刊行者に提供できる機能
  - キ 郷土資料の充実
    - ・積極的に公開し、市民が市の情報に接する機会を増やす
  - ク イノベーション機能
    - ・知的活動を通じた住民の交流の空間、コミュニティ活動の空間としての機能
    - ・図書館に集った人たちが交流し、新たなアイデアを生む空間の整備と交流するためのソフトサービスを提供

### 3. 主な質疑応答

- (問) 図書館で実施している多種多様なイベントは、図書館が主催することが多いのか、あるいは外部団体からの持ち込みなのか、場所を提供していることが多いのか、どのようなかたちで成り立っているのか。
- (答) 全て図書館主催でやっている。市の取り組みや方向性ということを考えながらイベントを実施している。
- (問) 講師にお金を支払い、やってもらうこともあるか。
- (答) お支払いしている場合も、無料でやっていただいている場合もある。当初は市の学芸員に専門分野のお話をしてもらっていたが、すぐにネタ切れになってしまった。国立歴史民俗博物館の共同研究員をやっている関係で、国から予算をいただいております、様々な分野の方々に講師としてお越しいただいている。
- (問) 話を聞いていると、館長の能力でここまで作り上げてきたと感じるが、持続性という観点で、当図書館がどのように続いていくのか、今後の展望は。
- (答) マニュアルはしっかり作成しており、また、関係各所とのつながりもしっかり積み上げている。私は新しい図書館を担当してこちらの図書館で4館目に当たるが、これまでの図書館も次の方にバトンを渡し、問題なく運営されている。ただ、最近の図書館協議会のテーマで「持続可能性」が課題として取り上げられている。職員が全て任期付職員か会計年度任用職員であり、終わりの任期が揃ってしまっているため、その先どうなるかということが課題となっている。
- (問) レファレンスの機能はとても大変な業務だと思うが、どのようにノウハウを作り上げたのか。
- (答) 図書館員の業務のうち、窓口の業務は微々たるものであり、本来の業務はレファレンスの業務が主であるが、なかなか他の業務に手を足られてしまうことが多く、レファレンスのスキルを磨くことが難しいのかもしれない。ただ、本来の図書館員のスキルとしては備わっているはずである。
- (問) 講座のラインナップを見ているととても魅力的である。貸出数等に限定して図書館を評価するのではなく、新しい評価のありようが必要と考えるが、どうか。
- (答) その部分は従来の図書館活動ではない活動のかたちで運営している図書館の悩みどころである。今、本の貸出率や回転数以外での図書館指標を様々な有識者が考えてくださっている。利用されない本こそ、図書館には置いておかなければならない。誰かの何かの課題に答えられるように準備しておかなければならない。このような部分は数字で出すことが難しい。全国的な流れとしてはまだない。
- (問) 盛り込み過ぎるとうまくいかなくなると思われる部分がとても上手く共存していると感じた。それぞれ利用者が目的のエリアに行くことになるのか、その間の行き来に

ついて、図書館側は意識して運営しているのか。

(答) にぎやかなエリア、閲覧エリア、静かにするエリアでなんとなく空間としては分けられてはいるが、児童エリアのところで土日になると大人の方がたくさん仕事されたり、グループラーニングのところはヤングアダルト本を置いているため中高生が多く集まるかと思いきや、高齢者の方が集まっていることもある。異年齢交流が生まれている。小さな4人掛けのテーブルの場合、一人の利用者が座るとパーソナルエリアがあるため他の3席が無駄になることがあったが、真ん中に緑を置くことにより、全く違う目的の利用者が隣同士で座られていることが多く見受けられる。